

ただ今工事中

(7月20・24・28日入札)

工事名	工事費 (万円)	完了予定日	工事業者
黒崎中学校中庭整備工事	175	10月20日	(株)長盛園
大野小学校グラウンド整地 及び盛土工事	155	7月31日	(有)宗村建材
町道大野11号線舗装工事	400	10月23日	(株)加賀田組
町道立仏1号線舗装工事	250	9月3日	(株)志賀組
町道立仏4号線舗装工事	750	10月3日	(株)志賀組
役場県道線歩道工事	1,470	11月22日	(株)笠井組
集落道2号線、集落排水138号線 農道205号線測量設計委託	280	10月11日	(有)小柳測量 開発
農道67号線用地測量委託	80	10月15日	(株)新潟測量 設計社
廃棄物埋立地橋梁工事	400	10月31日	(株)笠井組

黒崎町の昔



さて、この部隊は二ノ町と諏訪町の子供たちの合同作戦による行軍であった。当時、各町内の子供たちはみな一箇部隊の兵力を持っていて、いつも町内の他の部隊と激しい戦争なんごをくり返していた。

今、五十歳から八十歳ぐらいまでの人たちは、この激しい戦争なんごを戦い抜いてきた人た

文・絵 宮田栄門
その五



この行軍や戦争なんごに活躍したラッパ隊を指導したのは、海軍を満期になって除隊された宗村卯一であった。宗村は黒崎の報徳運動の中心的役割を果たした人だが、それはまだ先の昭和になってからである。ラッパの練習は夜行われたが、各町内からラッパの好きな子供たちが、大勢大野小学校の運動場集り、宗村から熱心に講習を受けたのであった。

また、行軍の日になると、朝六時ごろからラッパ兵の子供たちが集まり、五、六名で本物の軍隊のように隊伍を組んで起床ラッパを吹いて町内を回ったものだ。

※なお、この文章は明治生まれの古老のかたから私が聞いた話を基にしました。読者のかたの知っている「戦争なんご」と多少違っている点があるかもしれませんが、戦争なんごの一つとして読んでもらいたいと思えます。

今後の予定(編集部)
宮田栄門さんにはたいへん健康筆家で、原稿を全部広報紙で発表できないかもしれませんが、今後、次のようなものを予定しております。

- 明治のころの学校生活
- 明治のころの子供たちの小遣いと買物
- 新田町に遊廓「吉原」があった(江戸時代後期)
- 流れを変えた信濃川 立仏、山田は川の中(明治中期)

どうぞご期待ください。

清潔は町の文化のバロメーター

(泉井 ヨ子 中学通り)

「環境美化運動」の標語決定
黒崎町婦人協議会は環境美化運動の一環として、町民から標語を募集していましたが、七月下旬に八編が決定しました。五月から約二カ月間の募集期間に六十編ほどの応募があり、その中から二十四編を婦人会役員会で決め、さらに黒崎中学校の国語の先生がたの審査協力を得て選ばれたものです。

この標語は、看板になり町内に立っていますが、広報でも掲載八、九ページ下)していきます。

寺地中自治会で消火器講習会

寺地中自治会では7月24日(土)夕方6時から約1時間、新潟市石山防災センターの協力で消火器の実演と訓練の講習会を行いました。これは、昨年同自治会内で火災が発生したため教訓にしようと、場所もその焼跡地を使用しました。そして、約60人のかたが参加し熱心に講習を受けていました。(八内田正一さんからの連絡記事)

戦争なんご子供部隊 黒鳥方面に行軍(二)

当時(大正初め)の日本は日清、日露の両戦争に勝利を得、国を挙げて軍国主義にまっしぐらに突き進むようになっていたときであった。

国民もまたその国策に沿って、日本全国津々浦々まで軍国主義の思想がゆき渡っていた。だから、どの町でも村でも子供たちは、学校から帰ると「戦争なんご(ごっこ)」に明け暮れていた。

ちである。

この部隊の行軍に参加して、上級生から上等兵の階級をもらった私の叔父宮田義一は後に海軍を志し、本物の士官になった。また、同じく上等兵だった二ノ

した人だが、それはまだ先の昭和になってからである。ラッパの練習は夜行われたが、各町内からラッパの好きな子供たちが、大勢大野小学校の運動場集り、宗村から熱心に講習を受けたのであった。

また、行軍の日になると、朝六時ごろからラッパ兵の子供たちが集まり、五、六名で本物の軍隊のように隊伍を組んで起床ラッパを吹いて町内を回ったものだ。

※なお、この文章は明治生まれの古老のかたから私が聞いた話を基にしました。読者のかたの知っている「戦争なんご」と多少違っている点があるかもしれませんが、戦争なんごの一つとして読んでもらいたいと思えます。

町のお話を教えてください 8
広報くろさき 7-3101



録音中の渥美さん

渥美二郎さん 「黒崎よいところ」を録音
発表会は十月二十二日
先号でお知らせしたように、町民歌に「黒崎よいところ」(作詩 清水善夫 作曲 遠藤実)が決まり、このほどレコーディングが完了しました。

「黒崎よいところ」は七月二十二日(木)、東京都杉並区のテイチクスタジオで、浅妻町長他三名の町職員が見守る中、歌手の渥美二郎さんによりみごとに歌われました。

作曲家の遠藤実さんは新潟県のご出身で、本町についてもよく知っておられます。そのためでしょう。渥美さんに熱心に歌い方などを指導され、レコーディングも本番三回ですみました。

▲右から浅妻町長、遠藤実さん、渥美二郎さん

発表会
この「黒崎よいところ」は十月二十二日(金)、総合体育館で発表されます。当日は渥美二郎さんの生の歌声が聴かれる予定です。入場方法などは後日お知らせします。

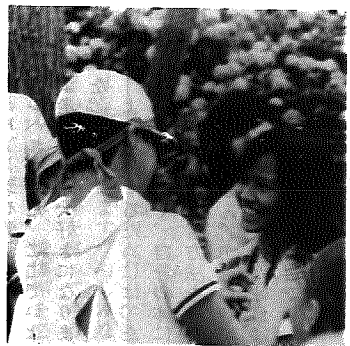


中央は通訳の野田さん

南の国がこんばん

JRC(日本青少年赤十字)は、毎年夏国際交流のために諸外国から短期留学生を日本に招いています。今年も数カ国から留学生を招待し、そのうちフィリピンから来たジョイ・グチェレス君(17歳)とメリー・キャサリン・リヤノスさん(16歳)がJRC活動の盛んな黒鳥小学校の夏期合宿に参加しました。

ジョイ君とグレイさんは日本でいえば高校生。黒鳥小の子供たちからみれば大きなお兄さん、お姉さんですが、初対面から「ハロー」と元気にあいさつ。フォークダンスや、キャンドルサービスで楽しみました。7月21日(木)、22日(木)、柏崎で行われたこの合宿は国際親善の舞台となったようでした。



▲初めまして



▶がんばればボーイスカウト 自転車キャラバン

ボーイスカウトの「自転車キャラバン」が、七月三十一日(土)本町を訪れました。これは日本ボーイスカウト連盟創立六十周年の記念行事で、自転車で行くというというものです。五月二十三日(木)に北海道と沖縄を出発し、十一月下旬に東京に着く予定です。

同キャラバン(新潟市のボーイスカウト二十人)は、昼二時過ぎ総合体育館に自転車で到着。本町ボーイスカウト、浅妻町長、鈴木昭さん、本多敏彦さんらが出迎えました。

簡単な式典の後、今度は本町のボーイスカウト二十人が自転車を乗り継ぎ、次の中継点西川町へ向かいました。

投げ捨てる気持ちを押しさえてゴミ箱へ (高野 正美 寺地中)